

令和３年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 総合学科高校の特色を活かし、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現で生徒の学ぶ力と自信を育む学校。
- 健全な市民を育成し、地域や社会を活性化する有能な人材を輩出する、地域から信頼される学校。
- 地域との連携、地域への貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成を実践する学校。
- ＜本校の教育目標＞
- 生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する
- 1 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する
 - 2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する
 - 3 共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する
 - 4 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う

2 中期的目標

- 令和５年度を目標に、更なる本校の取組みの充実をめざすための３年間を見据えた中期目標とする。
- 生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する
1. 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する
 - (1)魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い
 - 「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ、生徒の高校生活や進路への自信を育む
 - 総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現へ向けての実力の育成
 - ア 各教科や系列のさらなる特性を生かした魅力ある授業で生徒の学ぶ力と自信を育む。
 - ・地域連携、外部講師、資格取得など生徒の学習面での伸びしろを引き出す取り組みを行う。
 - イ きめ細かい指導で生徒の学習への意欲、習慣、興味・関心の向上で進路実現に必要な基礎学力、学ぶ力の向上
 - ウ 教員の教材研究・研究授業の活性化、授業力向上のための校内研修、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察等により教員の授業力の向上をめざす。
 - エ ICT を活用した魅力ある授業を推進し、生徒たちの基礎学力の確実な定着と学びの深化を図る。
 - ※生徒向け学校教育自己診断における学習指導の肯定感の平均を向上させ、令和５年度には 70%以上の肯定感をめざす。
(H30 61.5%、R1 65.8%、R2 69.2%)
 - (2)入学から卒業まで高校生活３年間を見越したキャリア教育の実践…生徒の多様な進路実現への支援
 - ①中退率の減少 …生徒の基本的生活習慣や中高連携、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用等を通して中退防止に努める。
※今後３年間で中退率府平均２％以下（H30 2.3%、R1 2.5%、R2 1.0%）を維持する。
 - ②希望の進路の実現
 - ア キャリア教育の充実 … 様々なガイダンスや出前授業、講演会などを通じて、自己実現に向けた適切な職業観を育成する
 - イ 就職活動支援の充実 … 就職希望者の内定率 100%をめざし、体系的な指導体制を確立する（H30 100%、R1 100 %、R2 100 %）
 - ウ 進学指導の充実 … 生徒一人ひとりにきめ細かい進学指導を行うとともに着実な学力の向上を図り、志望校への合格をサポートする
 2. 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する
 - (1)公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …取組みの重点項目、①授業規律 ②欠席・遅刻指導 ③服装・頭髮指導 ④あいさつの励行
 - (2)生徒による学校の活性化で生徒の愛校心（帰属意識）の向上
 - ①クラス活動の活性化…体育祭・文化祭等の行事や日々のホームルームを通じてクラス活動の活性化を行う。
※生徒向け学校教育自己診断において、「クラス活動は活発である」の肯定感を令和５年度には 65%以上をめざす。
(H30 56.6%、R1 60.8%、R2 62.1%)
 - ②生徒会活動などの自主活動…挨拶運動や学校行事の企画・運営の充実
※生徒向け学校教育自己診断において、「自主活動に関する項目」の肯定感の平均を向上させ、令和５年度には肯定感 65%以上をめざす。
(H30 53.7%、R1 56.2%、R2 62.9%)
 - ③クラブ活動の活性化…クラブ加入率を毎年向上させ、令和５年度には、50%以上をめざす。(H30 46.1%、R1 45%、R2 39.1%)
 - (3)地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成 …幼・保・小・中・大の各学校や、自治体関係機関、地域商店街などと連携した特色ある学習の取組みや生徒会活動を通じ地域貢献を推し進め、生徒の自己有用感や自己効力感、自他への肯定感を育むとともに、地域から信頼される学校をめざす。
※生徒向け学校教育自己診断において、「地域連携に関する項目」の肯定感の平均を令和５年度には 60%以上の肯定感をめざす。
(H30 56.5%、R1 51.2%、R2 49.3%)
 - (4)人権教育の更なる充実 …障がい者理解、同和問題や在日外国人問題など人権 HR を充実させることで生徒の人権意識を育み、豊かな心と人権感覚豊かな生徒の育成。
※生徒向け学校教育自己診断において、「人権教育」に関する肯定感の平均を毎年 75 %以上に維持する。
(H30 70.6%、R1 75.3%、R2 78.5%)
 - (5)教育相談活動の充実…教育相談委員会,SSW 委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進するとともに、教育相談委員会、人権教育推進委員会といじめ防止委員会の連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。

3. 共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する (1)共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育の更なる実践を推進する。 ※生徒向け学校教育自己診断において、「共生推進」に関する肯定感の平均 70%以上をめざす。(H30 65.9%、R1 66.5%、R2 69.6%) (2)配慮を要する生徒への支援 … 生徒一人ひとりの実態を適切に把握し、「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を活用しながら効果的な指導および支援の充実を図る。 4. 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う (1)家庭・保護者との連携 …家庭との連携を密にするとともに、学校行事や PTA 活動への保護者の参加率を高め、保護者と学校が協力し生徒を育てる校風をつくる。 ※社会見学会や工芸講習会、学校行事での活動など保護者が学校に来やすい環境をつくる。 (2)校内組織の連携と情報発信力の強化 …学校ホームページの充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れる。 ・学校行事や授業の様子、部活動などリアルタイムで「樟風ブログ」により発信する。 ・保護者メールの加入率 95%を維持する。 5. 教員の働き方改革について 府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進として次の取組みを行う。 (1) 全校一斉退庁日の設定・ノークラブデーの明確化 (2) 時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和3年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
1) 生徒の回答結果 多くの項目で肯定的な意見であった。特に、「総合学科」、「学習指導」、「生徒指導」、「進路指導」の肯定感が高い 【総合学科】肯定感が平均で 78.3% ○ 系列や科目選択については、選びたい系列や科目を選べた… 81.0% 【学習指導】肯定感が平均で 65.4% ○ 授業はわかりやすく、教え方や進め方に、様々な工夫をしている先生が多い… 62.6%（5.3%増加） 【生徒指導】肯定感が平均で 46.4% ○ 学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている…66.2% 【進路指導】肯定感が平均で 73.9% ○ 将来の進路や生き方について考える機会がある … 82.1% 2) 保護者の回答結果 ほとんどの項目で肯定的な意見であった。しかし、地域連携や PTA 活動等の参画の肯定感は低い結果となった。 【全般】肯定感が平均で 73.5% ○ 入学させて良かった … 76.8% 【総合学科】肯定感が平均で 68.7% ○ 総合学科の仕組みや選択科目の選び方がよくわかる … 71.4% 【学習指導】肯定感が平均で 59.1% ○ 先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている … 66.9% 【生徒指導】肯定感が平均で 55.9% ○ 生活や学習についての基本的習慣の確立に力を入れている … 72.4% 3) 教職員の回答結果 多くの項目で肯定感が大幅に増加した。しかし、生徒、保護者の評価との差が見られる。 【全般】肯定感が平均で 88.7% ○ 学校での生活は、生徒のためになっている … 98.5% 【学習指導】肯定感が平均で 85.0% ○ 指導内容や評価の在り方について、教科担当者や教科外とも話し合う機会がある … 89.2%増加 【生徒指導】肯定感が平均で 87.7% ○ 家庭との連携が取れ、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている… 98.4%（保護者 72.4%）	第1回（6月16日） ○ 生徒の状況について ・ 以前と比較し、遅刻者数や進路未決定率、中退率は大幅に減少している。今後さら減少させられるように頑張ってもらいたい。 ○ PTA 活動について ・ コロナ禍の影響もあるが、もっと学校行事に力を入れ学校の魅力や生徒の活躍の様子を発信すれば、PTA 活動に参加してくれる保護者も増えると思う。 ○ 進路指導について ・ 即戦力となる生徒を社会に送ることができるのは、この学校の総合学科の強みである。 ○ 広報活動について ・ 学校紹介の動画では、もっと生徒や先生の声、授業の様子などを見たい。 ・ 学校説明会では、生徒たちに説明させるなどの取組みをするとよい。 ○ 入試について ・ 教員のモチベーションや人権意識が高く、子どもたちが安心して学べる学校づくりが志願者増につながったと考えられる。今後はさらにその先にある取り組みをしていただきたい。 ・ 第2回（11月17日） ○ 教育相談体制について ・ 担任の SC の活用回数が多く、教員のモチベーションが非常に高いと思う。 ○ 進路指導 ・ 進路説明会で奨学金などの就学支援制度について丁寧に説明しており、進学希望の生徒および保護者をしっかりサポートしている。 ○ 授業見学、校内視察について ・ 生徒の様子や校内の環境整備状況を見て、学校全体が明るくなったと感じる。 ・ 授業を受ける生徒たちの姿勢もきちんとしており、メリハリのある教育をされている。 ・ 新しく導入される電子黒板を使用した授業を見たい。そのような新しい機器を活用した授業においては、先生の力量が試される。 ・ 第3回（2月28日） ○ 生徒指導について ・ 指導案件の減少は評価できる。その成果が生徒の学校満足度や学習意欲向上につながっているか注視していくことが大切。 ・ 生徒、保護者と教職員の回答結果に乖離がみられる部分について、分析と振り返りが必要。 ○ 学習指導について ・ 多様な進路に応じたカリキュラム編成など、工夫がなされている。 ・ 観点別学習状況評価に関する取組みは評価できる。目的は「授業改善」にあることを教員が共通理解し、検討を進められたい。 ・ オンライン授業の実施に向けた環境整備は重要。今後も進められたい。 ○ 学校教育自己診断の結果について ・ 学習指導の「わかりやすい」「教え方に工夫あり」、進路指導「将来の進路、生き方を考える機会あり」の高評価は重要。生徒の自己肯定感を高める指標と考える。 ・ 生徒、保護者ともに肯定感が高い。高校生活が充実していることがよく伝わる。 ○ 教育相談活動等について ・ 教育相談活動やインクルーシブ教育に丁寧かつ粘り強い取組みがなされている。 ○ 保護者および地域との連携、広報について ・ 保護者および地域との連携や PTA 活動は、やはりコロナ禍の影響がうかがえる。 ・ 学校ブログなど、学校からの情報発信が進められている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R2年度値〕	自己評価
1 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する	（１）魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い （２）入学から卒業まで３年間を見越したキャリア教育の実践	ア 総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現へ向けての学力の育成 - 各教科や７つの系列のさらなる特性を生かした取組みや授業において地域貢献や授業での外部講師等の活用など魅力ある総合学科の充実をおこなう - ICT を活用した魅力ある授業の実践に向け、公開授業や研修を実施する イ 系列での取り組みをホームページ等でリアルタイムで発信する ①中退率の減少 ア 教育相談委員会、SSW 委員会を中心に中退防止の視点を加え、学年との連携を行う。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制の効果的な運用。 イ 家庭との連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、社会福祉施設等の関係機関とも連携も行う。 ウ 生徒の出身中学校との連携を強化し生徒支援の助言を得る。 ②進路未決定者の減少と就職決定者の増加 ア 進路指導部と学年、系列で連携した入学から卒業までを見越したキャリア教育を行っていく。 １年次より、各分野の講師を招いての講演会を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、１年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底し系列選択のミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、２年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。 ２年次では、インターンシップ、オープンキャンパスへの積極的な参加への推進を行い、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習内容を大学・専門学校など学校外の資源を十分に活用しながら充実させる。 ３年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、面接指導・応募前職場見学参加指導を充実させ進路実現の実績を向上させる。 ③大学・短期大学の合格者輩出 ア 指定校推薦、AO 入試等きめ細かな進学情報の提供を活発に行う。 イ 保護者向けの進学説明会を実施し、経済的な面を含めて、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。 ウ、長期休業中は、講習を開催する。	ア 学校教育自己診断の全般（学校に行くのが楽しい、この学校に入学してよかった等の項目）が 70%以上をめざす。〔69.2%〕 生徒向け学校教育自己診断の学習指導の肯定 70%以上の維持 〔69.2%〕 ① 中退率の減少 中退率の減少 2.0%未満 〔1.1%〕 ②進路未決定者の減少と就職決定者の増加 - 進路未決定者の割合 7.0%未満を維持 〔2.5%〕 - 就職内定率 95%以上 〔100%〕 - インターンシップ参加者数の推進 ③大学・短期大学の合格者輩出 ア、イ 大学合格実績合格者輩出 - 大学進学希望者へのきめ細かい進路情報の提供で、希望大学への進学実現のため、保護者への情報発信の機会を設ける。保護者向け進路説明会数 〔2回〕 ウ 夏期・冬季講習 30 名以上の参加	ア 学校教育自己診断（生徒）の全般が 59.8%にとどまった。（△） ＊今年度、アンケート項目の精査を大幅に行い、回答やオンラインを利用した回答方法にも取り組んだ。今後は、アンケートに工夫を凝らしより実践的な結果を経年変化とともに検証する。 学校教育自己診断（生徒）の学習指導が 65.4%にとどまった（△） ① 中退率は 1.7%であった。（○） ア 教育相談委員会を 11 回、SSW 委員会を 13 回開催するなど、教育相談体制を効果的に運用した。 イ 外部機関とは、6 件 4 施設と連携 ウ 出前授業 4 回、中学校での学校説明会 2 回 7 月に中高連絡会（14 校 14 名参加）、10 月に中学校教員を招いた授業公開および情報交流会（6 校 6 名参加）を開催し、生徒支援に向けた活発な情報交換を実施 ② 進路未決定者は 7.0%（○） 就職内定率は 100%（○） ・ インターンシップは昨年度実施できなかったが、今年度は限られた期間ではあるが 15 名の生徒が参加。事前指導を 5 回にわたって行い、十分な成果を得ることができた。（◎） ③ 大学・短期大学の合格者輩出（○） ア、イ - 大学進学希望者への進路情報の提供で、希望大学への進学を実現した。（○） - 保護者向け進路説明会：2 回開催 （○）

府立枚岡樟風高等学校

2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する	(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。	(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア <u>生徒、教職員</u> による挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風をつくるとともに、生徒の学校生活への規範意識を育む。 イ 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。	(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ ア～イ。 ・ 生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感の80%以上維持〔82.5%〕	(1) 頭髪、服装違反もほとんどなく、遅刻・欠席者数も年々減少し、基本的生活習慣が確立している。また、生徒たちは自主的に挨拶を行うなど樟風生としての規範も育まれている(◎) 遅刻者数は910名から739名となり、約2割減少(◎) ア～イ 生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感74.3%にとどまった(△)
	(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心の向上	① クラス活動の活性化 ア 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化する。 イ 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。 ④ 生徒会活動などの自主活動 ア 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。 イ 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。 ウ 挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。 ③クラブ活動の活性化 ア クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。	① クラス活動の活性化 ・ 生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感の上昇〔62.1%〕 ② 生徒会活動などの自主活動の活性化 ・ 生徒向け学校教育自己診断の肯定感の上昇〔62.9%〕 ③ クラブ活動の活性化 ・ 加入率50%以上〔39.1%〕 ・ 生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感の上昇〔68.3%〕	① 生徒向け学校教育自己診断「クラス活動を通して、仲間づくりなど楽しくできている」の肯定感が65.9であった(○) ② 生徒向け学校教育自己診断の「自主活動」の肯定感は56.0%にとどまった(△) *新型コロナウイルス感染症拡大のため、学校行事が縮小または延期・中止されるなど、学校教育活動への影響は大きい。今後は、パンデミックや災害時にも柔軟に対応できるような準備を整える。 ③ クラブ活動の活性化 ・ 加入率42.6%(△) *感染症拡大のため、新入生歓迎会やクラブ体験活動などが中止されたことが影響されている。 ・ 生徒向け学校教育自己診断「生徒は部活動に積極的に参加している」の肯定感は、43.3%にとどまった(△) *部活動自体の活動や大会の延期・中止による部活動参加意欲の低下が目立った。
	(3) 地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成	系列での授業やクラブ活動・生徒会の活動を通じて積極的に地域との交流や連携・貢献を行う中で、立案や発表など生徒の社会人基礎力を醸造するとともに、地域から感謝、期待される中で自己有用感・自己効力感を高める。 ア 地元中学校区地域教育協議会等との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。 イ 各系列の取り組みを中心に地域子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所、地域商店街等との交流を促進し、地域への貢献を果たす。	系列やクラブ・生徒会で地域貢献 ・ 生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感の上昇〔49.3%〕	・ 生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感は20.0%にとどまった。(△) *部活動と同様に、感染症拡大のため、交流会やイベントの延期・中止による活動参加意欲の低下が目立った。
	(4) 人権教育の更なる充実	ア 人権HR計画に基づいて、障がい者理解、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。	ア 人権教育の更なる充実 学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の70%以上の維持〔78.5%〕	ア 生徒向け学校教育自己診断の人権教育の項目の肯定感は、56.2%にとどまった。(△) *人権教育推進委員会を見直し、学年主催の教育活動に切り替えるよう指示している。
	(5) 教育相談活動の充実	ア 教育相談委員会、SSW委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進 イ 教育相談委員会と人権教育推進委員会、いじめ防止委員会との連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。	ア 毎月スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも交えた教育相談委員会の開催 イ いじめ防止委員会の定例化(学期1回の開催) ウ いじめアンケートの年2回の実施	ア 教育相談委員会は11回、SSW委員会は13回開催(○) さらに、教育相談・SSW合同会議を3回、教育相談・SSW報告会を4回、ケース会議を5回開催するなど充実した教育相談活動を実施(◎) イ、ウ アの各種委員会においても、アンケート結果や教育相談に関する情報共有を密にすることで、いじめ事象に早期に対応し、未然に防止することできる体制を強化することができた。(○)

府立枚岡樟風高等学校

3 共生推進教室を軸に「共に学び、共に育つ」 インクルーシブ教育を実践する	(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する (2) 配慮を要する生徒への支援の充実	○「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践 ア 共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する イ 新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。 ウ 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る ○生徒一人ひとりの実態を適切に把握し、効果的な指導および支援の充実を図る ア 年度当初に全教職員で生徒の実態を把握するための生徒情報共有会議を開催 イ 学期ごとに教育支援会議を開催し、生徒の授業への取り組みや学習の状況の確認を行い、一人ひとりの学習支援について検討する	ア～ウ。 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の上昇〔69.6%〕 ア 生徒の状況の変化に応じて学期ごとに年3回以上の開催 イ 教育相談委員会からの意見も取り入れながら学期ごとに年3回定期的に開催	ア～ウ 生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の肯定感平均は 53.4%にとどまった。(△) ＊感染症拡大のため、共生教育推進教室在籍生徒との交流も控えめになってしまった。今後は、新たな様式で取り組みを継続できるよう検討を進める。また、たまがわ高等支援学校と教職員の交流も活発に行えるような PT を立ち上げるなど検討する。
4 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う	(1) 家庭・保護者との連携 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化	(1) 学校の情報を発信し、PTA 活動や学校行事への保護者の参画率を高める。 ア 授業参観への参画率を高める。 イ 体育祭や文化祭など、学校行事への参画率を高める。 ウ PTA 活動への参画率を高める。 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア ホームページ、「樟風ブログ」の充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れ、学校情報を更に発信し地域から信頼される学校をめざす。 イ 保護者メールの加入率の増加…令和5年には 95%をめざす。学校説明会、出前授業で学校の取組情報の発信	(1) 保護者の参画率の向上 ア～ウ - 保護者向け学校教育自己診断において、参画に関する肯定感の上昇 (R2：46.1%) - 学校教育自己診断の保護者提出率の上昇〔78.4%〕 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア、イ 学校ホームページの充実と保護者学校メーリングリストの保護者加入者の増加〔90.0%〕	ア～ウ - 保護者向け学校教育自己診断の参画の肯定感平均は 29.0%であった。(一) - 授業参観には 62 名の保護者の参加があった。 - PTA 主催の保護者対象工芸講習会(クリスマスリースの作成)を開催 - 学校教育自己診断の保護者提出率は、71.1%であった。さらなる提出率の上昇を図るため、周知の方法やフォーム作成ツール等を活用した実施について検討する必要がある(○) ア 学校ホームページを活用し生徒・保護者・地域・中学生などに向けた情報発信を活発に行った。学校ブログを開設し、系列の授業や、部活動の紹介、緊急時の連絡などを積極的に行った。(○) イ 保護者メールの加入率は 90%以上を維持。(○)
5 教員の働き方改革について	(1) 全校一斉退庁日・ノークラブデーの明確化 (2) 時間外勤務の縮減	ア 本校では毎水曜日が全校一斉退庁日となっている。緊急時の対応以外は午後7時までに退庁する。 イ 部活動を行わない日をクラブ毎に週1回設定をしている。各部活動のノークラブデーを掲示するなど明確化に努める。	ア 全校一斉退庁日の徹底実施 イ 「大阪府部活動のあり方に関する方針」の順守	・校内を回り声掛けを実施するなど、帰宅を促した。(○) ・学校閉庁日は、8月13日～15日、12月29日～31日で設定した。(○)